



石原富子 議員
(開白会)

問 公共交通のありかたを問う

超高齢社会に入り、公共交通がますます重要になってくる。10年後20年後に備え、今から考えていくべきときだ。今、循環バスの復活を望む声も高い。また、移送支援やスクールバスの混乗など、社会のニーズに対応した柔軟な策が望まれる。視野を広げ検討しては。

答 のりあい交通を基軸として努力したい

交通弱者のかたがたの移動手段の選択の幅を広げる必要性は認識している。今後は、市民の意見を聞きながら、国が実施する実証実験などを注視し、社会情勢の変化を的確に捉え、のりあい交通を基軸とした公共交通の充実に向け努力したい。

問 救急医療情報キットの活用を

「命のボタン」とも呼ばれるこのキットは、緊急時に医療情報がわかり、大変役立つものだが、周知されていない。高齢者のいる全世帯に配布し、利用を定着すべきではないか。また、外出時に安心なキーホルダーなど、積極的に高齢者の命を守る取組はどうか。

答 高齢者の状況に応じた対策を講じる

健康状態に不安があるなど、救急医療情報キットを必要とされるかたに配布できるよう整備し、普及に向けチラシを配布するなど対応していく。また、先進事例を参考に、見守りキーホルダーの実施に向けた検討など、より良い対策を講じていく。



救急医療情報キット

県4区議長会議員研修会

「市民は何を望むのか？」～ニーズの把握と連携の可能性～

7月26日 吉川市

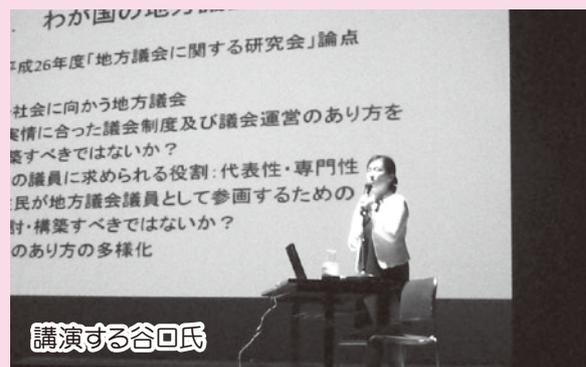
慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科准教授の谷口尚子氏を講師に迎え、講演が行われました。

講演会では、地方議会の課題から、「集中専門型」と「多数参画型」の2つの議会の在り方について説明がありました。集中専門型は、専門的議員が前提で、多様な住民から任意抽出された議会参画員が制度の上で効果があること、多数参画型については、非専門的議員が前提なので、参加のハードルを下げる必要があることなどが説明されました。

また、課題や問題点として、集中専門型は、少人数に権力が集中するので、むしろ議会が硬直化するのではないか、多数参画型については、執行部に権力が集中し、議会機能の縮小につながるということでした。これらから、現在は、批判的意見および推進的意見の両方がある

り、幅広い意見を収集し、反映させていくことが必要であり、また、住民参画法の検討が必要とのことでした。

市民ニーズを把握する方法の説明もあり、市民の個性を活かすことで、今後、市民との連携の可能性を広げられることが理解できた講演会でした。



講演する谷口氏